

ぶんかざいまるちなび

文化財知ナビ

No.26

このニュースレターは、「文化財に親しむ機会の提供に関する事業」のひとつとして、身近な文化財情報をはじめ、文化財を活用した事業などの紹介を行っています。ぜひ学校教育や生涯学習の場で広くご活用ください。

じゆうようぶんかざい かいたくしぶんしよ 重要文化財「開拓使文書」

へいせい ねん がつ にちづ かいたくしぶんしよ てん くに じゆうようぶんかざい してい
平成26年8月21日付けで開拓使文書（7, 832点）が国の重要文化財に指定されました。



かいたくし えそちが ほっかいどう なつ めいじ ねん めいじ ねん ねんかん
開拓使は、蝦夷地が「北海道」と名付けられた明治2年から明治15年までの14年間、
ほっかいどう ちしま からふと かいたくけいえい おこ きやうせいきかん
北海道・千島・樺太の開拓経営を行った行政機関です。

その開拓使で作成・保存された文書は、明治19年に設置された北海道庁へと引き継がれ
ました。その後も、火事で燃えてしまったり、捨てられたりすることなく残った文書は、現在、
どうりつもんじよかん たいせつ ほかん こうかいりやう
道立文書館で大切に保管され、公開利用されています。

めいじせいふ ほっかいどう きんだいか ひとびと たい せいさく どうじ ちいきしゃかい ようす ぐ
明治政府による北海道の近代化やアイヌの人々に対する政策、当時の地域社会の様子を具
体的に知ることができる貴重な資料です。

ほっかいどうりつもんじよかん しょうかい ■北海道立文書館の紹介■



ほっかいどうちやう あか ちやうしゃ
北海道庁（赤れんが庁舎）

まつほろ しちやうあうく きたさんじやうにしちくちやうめ
札幌市中央区北3条西6丁目

ほっかいどうちやう あか ちやうしゃ ない ほっかいどう れきし かん
北海道庁（赤れんが庁舎）内にある北海道の歴史に関する
きろくしりやう あつ ほかん しせつ
文書や記録資料を集めて保管している施設です。

かんない てんじしつ めいじき さつほろしかい もけい かいたくし
館内の展示室では、明治期の札幌市街の模型など、開拓使の
たんじやう ひとびと く かん しりやう てんじ めいじき
誕生や人々の暮らしに関する資料を展示しており、明治期の
ぶんしよ じっさい よ へや
文書を実際に読むことができる部屋もあります。

くわ ほっかいどうりつもんじよかん らん
詳しくは北海道立文書館のホームページをご覧ください。

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/sm/mnj/>

しゃしんていきやう ほっかいどうりつもんじよかん
（写真提供：北海道立文書館）

どうしていうけいぶんかざい ほっかいどうかていがっこうれいはいどう 道指定有形文化財 「北海道家庭学校礼拝堂」

平成27年3月31日付けで
紋別郡遠軽町にある北海道家
庭学校礼拝堂が北海道の有形文
化財に指定されました。

この建物は、大正8年に建築
されました。大正期の教会堂
の形が残る希少なものであり、
学校のシンボルとして現在も大
切に管理されています。

また、日曜日には建物内で礼
拝が行われています。

左右対称を基本とした木造
建築で、周辺の山林から切り出
したトドマツなども多く使用さ
れています。

外側は「ドイツ下見板張り」
と呼ばれる「隙間を空けた横板
張り」を基本としていますが、縦
板張りや「ーフティンバー」
と呼ばれる「柱や梁などの骨組
みを見せる構造」を組み合わせ、
変化を持たせています。

内側は礼拝堂の中心性を示
すために天井が幾何学的な枠
組みと板張りで装飾されてい
ます。

外側も内側も細かな工夫をし
た歴史的価値の高い建造物です。



外観正面（がいかんしょうめん）



内部天井（ないぶてんじょう）

文化財ニュースレター 文化財まる知ナビ No.26

発行 平成27年10月16日 編集・連絡先 北海道教育庁生涯学習推進局文化財・

博物館課（お問い合わせはこちらへ）電話011-231-4111（内線）35-620 メール kyoiku.bunka2@pref.hokkaido.lg.jp